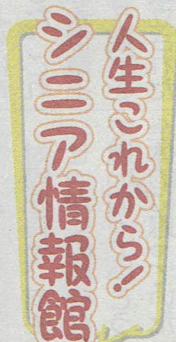




幸 齡 社 会



シニアライフアドバイザー

松本すみ子

日本の65歳以上の就業率は、20%を超え、アメリカやカナダよりも高くなっています。さらに、妻が65歳以上の共働き夫婦(夫の職業が農林業を除く)は80万世帯となり、増加する傾向に。専業主婦が主流だった世代の妻たちですが、徐々に変化しているようです。

私の60代の仲間たちも、ほと

働いて得るもの

んどが仕事をしています。主な動機は「収入のため」ですが、生きがいや、生活にメリハリを付けるのも理由とのこと。

しかし、現役世代のように、平日は満員電車通勤して午前9時から午後5時まで働く、という様子ではありません。短い時間を週2、3回働きながら、生活を充実させています。

今、そんな働き方を希望するシニア世代に、就業のチャンスが増えていきます。理由は、少子化と人口減による人手不足。特にサービス業では、元氣な60〜70代のシニアは「引く手あまた」といってもいいほどです。

就業のチャンスが増加



例えば、ある大手のコンビニチェーンは自治体と提携して、シニア世代の就労支援を開始。コンビニやファストフードだけでなく、多くの業種でシニアの人材確保が叫ばれています。私のところにも、人材の登録と派遣を行っている会社から、中小企業の顧問が務まるよう

「ふさわしい人」はいないか、問い合わせが頻繁にきます。情報の「アンテナ」を張り、待遇はぜいたくを言わず、自分ができそうな仕事から選べば、緩やかな就業の機会は結構あるというのが、私の実感です。

収入面の目標は「年金プラス3万円」。まずは、これを実現させてみてはどうでしょうか。旅行や趣味、友人との交流、子や孫のためにも使うことができるお金です。

シニア世代が働いてお金を使うことは、社会や経済の活性化につながります。「よく働き、よく活動するシニアの時代」が到来したのです。